

# 養豚農業振興法に基づく 基本方針の見直しについて

---

令和6年11月  
畜産局企画課

## 目的(第1条)

この法律は、養豚農業が、国民の食生活の安定に寄与し、及び地域経済に貢献する重要な産業であること並びに食品残さを原材料とする飼料の利用等を通じて循環型社会の形成に寄与する産業であることに鑑み、養豚農業の振興を図るため、(中略)もって養豚農業の健全な発展に資することを目的とする。

## ■ 養豚農業振興法における基本方針の位置付け

- ✓ 農林水産大臣は、基本方針を定める(法第3条第1項)。
- ✓ 基本方針には、次に掲げる事項を定め(法第3条第2項)、豚肉の需給事情、農業事情その他の事情の変動により必要があるときは、変更する(法第3条第3項)。

- ① 養豚農業の振興の意義及び基本的な方向に関する事項
- ② 養豚農家の経営の安定に関する事項
- ③ 国内由来飼料の利用の増進に関する事項
- ④ 豚の飼養に係る衛生管理の高度化に関する事項
- ⑤ 豚の伝染性疾病の発生の予防及び豚の伝染性疾病が養豚農家に経営に及ぼす影響の緩和に関する事項
- ⑥ 安全で安心して消費することができる豚肉の生産の促進及び消費の拡大に関する事項
- ⑦ その他養豚農業の振興に関し必要な事項

1 養豚農家の経営の安定

- 規模拡大等による生産コストの低減のため、畜産クラスターの仕組みも活用し、生産基盤を整備
- 黒豚など特定の品種や、米など国内由来飼料の利用により、豚肉のブランド化、差別化

2 国内由来飼料の利用の増進

- 飼料用米の利用推進のため、需給のマッチングを実施
- エコフィードの利用推進のため、関係法令の特例制度を活用した事例やその運用を地方自治体等の関係者へ周知

3 豚の飼養衛生管理の高度化

- 農場HACCPの普及・定着等により、畜産物の安全を向上
- オールイン・オールアウト方式の導入、飼養衛生管理基準の遵守等により伝染性疾病発生リスクを抑制
- 光触媒等の最適な施設・技術により臭気、汚水対策

4 安全で安心して消費することができる豚肉の生産の促進及び消費の拡大

- 飼料用米の利用等の特色ある飼養方法について、豚肉の品質差を客観的に示す研究を行い、消費者の理解を促す

5 豚肉流通の合理化等

- 産地食肉センターを中心に食肉処理施設の再編整備
- 豚肉の取引規格、豚肉及び加工品の品質表示の普及



# 見直しのスケジュール(案)

令和6年11月以降 委員から意見を聴く会(年度内に全2回開催予定)

- 11月1日開催

第1回:養豚農業をめぐる情勢等について意見交換
- 1月下旬～2月上旬開催予定

第2回:骨子案

令和7年 2月 食料・農業・農村政策審議会畜産部会(骨子案)

3月 // (本文案)

3月以降 新たな基本方針の公表

# 意見を聴く会における委員からの主な意見

## 経営の安定

- 配合飼料価格や資材費が上昇し、生産コストが上昇。農家戸数が年々減少していることも踏まえ、経営の実態をしっかりと把握すべき。
- 飼料の安定供給と飼料価格の低減が課題。
- 慢性疾病が経営に与える影響は大きい。
- 今後、生産性の向上は必須。そのためには、施設整備などのハード面に加え、経営分析(ベンチマーキング)などのソフト面にも取り組むことが不可欠。
- 生産基盤を維持するため、大規模だけではなく中小農家も支援していく必要。また、経営安定対策の適切な実施が必要。

## 国内由来飼料

- 食品ロス削減の取り組みにより、食品廃棄物は減少しているが、サツマイモなどエコフィードに活用できる未利用資源はまだある。
- 食品廃棄物は飼料利用が最優先とされていることが知られていない。エコフィード利用によるCO<sub>2</sub>削減効果などを調べ、食品製造事業者に周知することも重要。
- 飼料用米の価格・供給量は食用米の作付状況に左右されている。

## 飼養衛生管理の高度化

- 養豚の悪臭は、農場ごとに原因が様々なため、苦情に発展しやすい。状況や要因に合った対策を講じることが重要。
- 家畜のふん尿は食品廃棄物と混合することによりバイオガス発電に使用されるなど再生可能エネルギー源として有益。
- 堆肥の利用を進めるためには、ペレット化による利便性向上や化学肥料との混合による成分の安定化等により、耕種農家が使いやすいものを供給することが重要。
- 飼養衛生管理基準の遵守や獣医師によるアドバイスを取り入れた衛生管理に取り組むことが重要。

# 意見を聴く会における委員からの主な意見

## 疾病発生 予防

- 豚熱については、ワクチン接種のほか、病気を入れない農場バイオセキュリティが重要であり、ソフト・ハード両面からの防疫の強化が必要。
- 豚熱については、引き続き野生イノシシへの対策も必要。
- 引き続き、アフリカ豚熱等への水際対策の徹底が必要。
- 迅速で適切な診断・治療のため、遠隔診療を推進する必要。

## 安全安心な 豚肉の生産 ・消費

- 国産豚肉の消費拡大が重要。チェックオフについても生産者の理解を進める必要。
- アニマルウェルフェアに対応した飼養管理は通常よりコストが掛かるが、価格への転嫁が難しい。
- 消費者の欲求は、高くても良質なものを、安価なものに二極化している。日常用に安価な豚肉を求める人もいれば、黒豚など品質のいいものを求める層もいる。
- ハム・ソーセージなどの加工品においては、原料のほとんどが輸入豚肉。一方、贈答品では、国産豚肉を使用したものにも需要がある。

## その他

- と畜場は公共性の高い施設だが、老朽化、労働力不足が課題。また、災害発生に備えたBCPの策定が必要。